

友の会通信

“てんこ盛り”の「第3回友の会ウィーク」

『吉本隆明』に関する講演や展示も開催

開館3年目に入った中央図書館で「第3回友の会ウィーク」が10月29日から11月9日まで開催されました。期間中には中央図書館と友の会との共催企画、友の会の各委員会や会員が所属するボランティア団体が様々なイベントを行いました。映画の上映、読書会、おはなし会、トークライブ・スペシャル、図書館利用ステップアップ講座、CDコンサート、ナイトセミナーをはじめ、紙芝居、演劇、音訳・点訳の体験講座など約20のイベントの“てんこ盛り”。

また11月末まで展示企画委員会による特別展示やイベント委員会によるエントランスやかつしかコーナーでの「吉本隆明」に関する企画展示も同時に開催されました。今号ではこの「友の会ウィーク」を特集しています。



トークライブ 『吉本隆明と葛飾』 石関善治郎氏が講演

スペシャル その人と思想を自らの足で確かめ、熱く語る



11月5日(土)午後2時より会議室1にて、マガジンハウス元編集長で、『吉本隆明の東京』の著者である石関善治郎氏による講演会が開催されました。石関氏は葛飾在住であり、雑誌編集者として出会った吉本隆明と、その葛飾の関係を熱く語りました。

講演の最初に吉本隆明が戦後最大の思想家であり、60年安保、そしてヘルメット世代の人間にとって大きな存在であったのだが、現在の若い人にとっては“よしもとばなのおとうさん”と言うほうが通りがよいかも、との説明に参加者は思わずうなずいていました。

石関氏の著書は、11回転居し12の家に住んだという吉本隆明の家をたどることにより、彼の人と思想を知ろうとするもので、講演

の前半は吉本が生まれ育った月島を中心にその由来、土地柄、そして住んでいた家の場所や間取りを詳細に語るものでした。わずかな手がかりや関係者の記憶を足がかりにして、地道にその付近を探索し聞き取りをしたという石関氏の言葉から、氏の吉本隆明への敬愛がどれほど深いかを感じとることができました。

後半は吉本一家が昭和16年に現在のお花茶屋2丁目、当時葛飾区上千葉といわれていた営団住宅に移り住み、昭和29年に家をでて文京区駒込のアパートに移り住むまでの、講演テーマである吉本と葛飾のかかわりについて、手書きの地図を示しながら話が進みました。この葛飾時代こそが彼の思想形成期であることを、戦争時の徴用、疎開、終戦、東洋インキ青戸工場での労働争議、2点の私家版の詩集の出版などの経緯、上千葉の吉本家の構造、家族構成など石関氏がその足で確認した事実により述べていきました。

当時の上千葉はかなり田舎であったこと、吉本が仕事帰りに寄った青戸の酒場など、葛飾に住むものにとって興味深い話もありました。石関氏の誠実な語り口は、吉本隆明を知らない人にも共感できる楽しい1時間半の講演でした。

(広報委員会)

「友の会ウィーク」のフィナーレのイベントとして、第3回ナイトセミナーを11月9日に開きました。講演の要旨は以下の通りです。

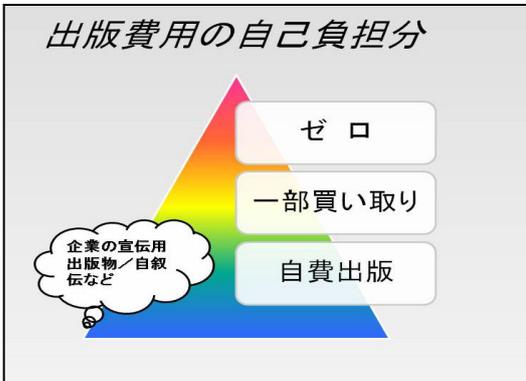
興味深いことに出版社における新刊出版のプロセスは、一般メーカーにおける新製品開発とほぼ同じプロセスをたどります。執筆者は出版社側とどのようなやりとりをしながら本の企画を固めるのか、そして重版と改訂版のディジションをどうするかについて話しました。また出版費用の負担には左下の図のように様々なバリエーションがあることもお話ししました。講演の後半ではノンプロの一個人が、組織の力を借りずに出版の夢をかなえる秘訣を

披露しました。要約しますと次の4点です。

- ①自分の意見を積極的に公表する、②執筆の機会があったら逃さない、③まず共同執筆から著者デビューをはたす、④多忙だとか周囲のねたみに負けない強い心を持つ。

書くことが好きで、いつか自分も本を出したいとお考えの皆様にご多数ご参集いただき、講演後にはとても活発なご質問を頂戴しました。時間はプログラム通り7時に始めて8時に終了しました。最後に非会員の方々に対して、友の会への参加を呼び掛けて講演会を締めくくりました。

葛飾図書館友の会会長 多摩大学大学院教授 朝野熙彦



「映画音楽を彩った名曲特集」11曲を鑑賞

CDコンサート委員会 が初のイベント

新しく発足したCDコンサート委員会が11月6日(日)午後3時から『映画音楽を彩った名曲特集』を開催しました。映画に使われたクラシックをカラヤンがウィーンフィルで指揮をした図書館所蔵のCDを使用し、会議室1のスピーカーから流れる演奏を大音量で鑑賞するという企画。委員3名がプログラムに沿って映画や音楽に関する思い入れや簡単な説明(?)を演奏前に話した後、“ホール”の明かりを落とし、スライドで映画のポスターを見ながら、『ハンガリー舞曲』『ボレロ』『天国と地獄』『レクイエム』など名曲の11曲に聴き入りました。会場の一部は展示企画委員会の協力により飾られ、落ち着いた空間を作り出していました。

約2時間の初のイベントでしたが、来場者のアンケートでは“満足”との回答が多く、今後の開催への具体的なリクエストも多く寄せられました。次回は来年初めを予定しています。(CDコンサート委員会)

おなかの底がほんのりあったか

「おはなしクラブ」の昔話、ことばあそび、手袋人形



児童・YAサービス応援委員会の「おはなしくらぶ」も、始動から1年以上が経ちました。メンバーも増え、小さいお子さんや小学生のママから大きいお孫さんがいる大先輩まで、幅広い年齢層の方が新たな演目に挑戦しつつ活動しています。友の会ウィークの参加も2回目ということで、今回も2チームに分かれて、11/5(土)・6(日)と2回のおはなし会を企画しました。

5日のプログラムは日本の昔話のストーリーテリング(語り)に始まり、新聞を使って折り紙をしながらすすめるお話、絵本を見ながら読み手と参加している子どもたちが一緒になって、動物の啼き声を出したり体を動かしたりする場面もあり、おはなしのへやはほのぼのと楽しい空気で満たされていました。最後の絵本は『しずかなおはなし』。しっとりとした心にしみこむお話で、おともあたたかい気持ちになりました。

6日はわらべうたのことば遊びからスタート。一緒に考えて一緒に歌って、子どもたちと仲良くなってから、絵本、パタパタと紙を折りながらの「ドレスのおはなし」、かわいい2匹の犬の手袋人形(ことばあそび)が続きました。しめくりは大型絵本。ちょっとライトを落として、『すてきな三にんぐみ』の迫力のある大型絵本に、子どもたちはじっと見入っていました。

おはなしのへやの「おはなし会」は、にぎやかな日常からしばし離れて、生の「人の声」に耳を傾け、刺激的な「大笑い」とは違う、おなかの底がほんのりあたたかくなるような「楽しみ」を見出せる空間でありたいと思っています。参加してくれた子どもたちの顔に、そんな「楽しさ」が見え隠れして、演じている私たちのほうが、「また、楽しいおはなしを届けよう!」と、元気をもらえた気がしました。

(児童・YA サービス応援委員会)

図書館利用ステップアップ講座 “もっとレファレンス！” 担当職員が事例の紹介と利用のコツを伝授

11月6日(日)は中央図書館と友の会共催による“もっとレファレンス！ ～事例を知ってあなたも気軽に～”という「図書館利用ステップアップ講座」が開かれました。

レファレンスサービス担当職員の前田さんから約1時間にわたってサービスや事例の紹介、データベースの活用などを中心に分かりやすく、そのコツを伝授されました。

漢字の読み方、郷土の調査や自分のルーツ探しなど、なんでも訊けるが、利用者は『レファレンス受付票』に質問事項を予めまとめておくことや自分で調査したことを伝えること、事前に調査依頼を申し込んでおくことがコーナーから情報提供が受けやすいとの説明に納得。また図書館が持っている「聞蔵Ⅱ」「ヨミダス歴史館」や「日経テレコン」などの11種類のデータベースの活用も紹介されました。さらに東京都立図書館や国立国会図書館と連携したレファレンスサービスも図書館から受けられるとのことでした。

そもそもこのサービスは、利用者からの調査依頼を職員が図書館資料を用いて回答したり、回答を導くための調査の“手助け”や“紹介”をする業務であり、医療・ビジネス・経済や法律などの専門家ではないので判断は利用者がすること、個人情報との問い合わせや人生相談などには当然ながら応じられないことなどを説明されました。最後に「ビジネス相談会」「ビジネスセミナー」の紹介や参加者から多くの質問で講義は終了しました。

『図書館ボランティア草加』と交流

結成12年目を迎え、六つの部会で構成

ほぼ毎日、どこかの部会が市立図書館で活動



10月7日(金)午前、『図書館ボランティア草加』が中央図書館の見学と当会との交流に来館されました。草加市立中央図書館の副館長と16名の会員の皆さんが9時過ぎに草加市の松原団地をバス1台で出発。10時に到着され、3グループに分かれ、中央図書館を約1時間職員の説明を受けながら館内を見学されました。交流会では当会の発足とこれまでの活動内容が各委員会から報告されたあと、『図書館ボランティア草加』の紹介が行われました。“市立図書館でのボランティア活動を通じて、人と人とのふれあいを楽しみ図書館をサポートすること”を目的に、会員が楽しく、魅力ある活動をするため

結成されたという、今年で12年目を迎えた団体。現在の会員数は約100名で、これまで千円だった年会費を今年から無料にし、登録のみで会員になれること、会費は必要に応じて徴収されること(因みに今回の見学会は駐車場代として300円の参加費のみ)、ブック・音訳・キッズの各サポート、布絵本を作る会、にほんごひろば、広報の6部会で構成されていること、「L. V. Sニュース」という会報は隔月発行で会員は中央図書館に取りに来ること、また活動に必要な経費などはこれまでに納入された会費でまかなっていることなどの説明がありました。

その後、意見を交換したり、相互に質問しあうなど、少々慌ただしい交流でしたが、参加者のみなさんは午後柴又散策を行ったとの事で、今後も交流を続けていく予定です。なお、12月15日(木)午前『としょかんふれんず千葉市』が来館されます

区内の図書館からボランティア依頼

廃棄・リサイクル、絵本の拭き掃除などに協力する

区内の図書館から「友の会」にボランティア協力の依頼があり、総務委員会の呼びかけにより延べ11名の会員が参加しました。前号でお伝えした中央図書館でのタグ剥がしなどに続き、8月末には立石図書館からサービスコーナーに配架されていた本の廃棄とリサイクル作業を、お花茶屋図書館からは絵本の拭き掃除を9月にかけてそれぞれ2回行いました。お花茶屋での作業は児童室にある約3,000冊の本の表紙や裏表紙の汚れを水を含ませたスポンジで拭き取り、さらにタオルで拭くという根気のいるものです。これまで愛読されてきた絵本、特に白いカバーの絵本は“こんなに汚れていたのか”とビックリするくらい。“シャワー”を浴びた絵本は新刊のようにきれいに生まれ変わりました。



また11月8日(火)午前中には、中央図書館と協力して金町保健センターエリアの児童館や保育園、子ども・保健センターがそれぞれ特色のあるコーナーを設け、展示・相談や活動の紹介をする『らんらんフェスティバル』が開催されました。友の会会員はお子さん連れの参加者の会場への誘導・案内に4名がオレンジ・エプロンを着用して協力しました。なお、今後は鎌倉図書館での書架整理の作業が予定されています。

「マーケティングとは何か？」ビジネス読書会を開催

イベント委員会では去る10月5,12,19日に3回連続のビジネス読書会を開きました。

当会では発足当初からビジネス支援活動の構想があって今回ようやく実現したものです。読書会を共催して下さった葛飾区立中央図書館に感謝します。今回取り上げた本は「マーケティング&リサーチ通論」というテキストで、当会の朝野会長がチューター役を勤めました。

参加者は11人で、そのうち友の会非会員は9人でした。30~40代の会社員の方が多くを占めました。読書会の情報を知るのが遅れたために参加希望があったのに断念された方もおいででした。案内のタイミングが遅れてご迷惑をおかけしました。また読書会を機会に何人かの参加者がさっそく当会に入会していただきましたので、ビジネス支援や起業・開業のための勉強会の続編ができそうです。読書の価値は幅広いので一概に言うことではありませんが、今回の読書会のように実務上の切迫した課題をかかえて学習するという読書会にも意義はありましよう。

今回のビジネス読書会が、当会の新しい仲間作りの一つのきっかけになったことは間違いありません。読書会の雰囲気は右下の写真と参加者からの感想でご推察ください。本人の承諾を得て転載しました。

【参加者の声】

先日はありがとうございました。マーケティングは本当にちょうど勉強中だったので総論が頭に入ってすごく良かったです！勉強会は社内でもやってみようかなと思っていたので、進行方法も参考になりました。

参加のきっかけはチラシを見て、マーケティングは業務で使うため仕事に役立つという事で参加することにしました。

連続的な勉強会に参加するうちにだんだん分かってきた・・・という感じがしました。とても緊張感があって、マーケティングの勉強にしても、お互いの討議スキルにしてもある程度習得できた実感があり、とても満足しています。勉強会のために準備した分を超えるリターンが得られました。やはり中身のある勉強ができるのは、勉強・読書好きな人には魅力的だと思います。これからも宜しくお願いします。



「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

毎月第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また従来通り友の会開催イベント時に直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員は1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、23年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、清水さん、白井さん）Tel 03-3607-9201

色えんぴつ

まだ暑さの残る時分、我が家では開放した窓やドアから頻りに侵入する黒猫に悩まされていた。ゴミ袋を破り、台所でだし殻の煮干を盗む。閉じた窓だつて自力で開けるのは何とも驚いた（古い家ゆえ木製の窓が多い）▼定期便のような訪問に慣れてしまった秋に災難は起きた。押入れに隠されていた子猫、まだ乳飲み子に近い赤ん坊が雨続きで締め切った部屋に親が近寄れず、哀れ飢えて力尽きてしまったのだ▼親猫は知つてか知らずかこの家を離れない。しかも一匹と思っていた黒猫が実は一匹だった！どちらが親かは不明だが、再び同じ事態に至らぬためには「(trap) Z (neuter) Return) しかない」と猫嫌いな家族を説得。飼えればそれが一番なのだけれど▼手術に備え、手なづけようと餌やりを始める毎朝揃って飛んでくる様子がとても可愛い。『空飛び猫』(アーシュラ・ス・ル・グウィン著/講談社)たちは農家の納屋に安住の場所を得たけれど、きょうだいの末妹(空を駆けるジエーン)に似た「うちの」黒猫たちの未来にも明るい希望がほしい▼冬に向かい、今のままでいいのか、外で暮らす大人猫を迎えてくれる奇特な人はいないものか、屋根の上で平和に日向ぼっこをしている毛玉たちを見ながら思案をめぐらせている。

(林広報委員)